

Title	『宗教と社会貢献』 創刊の辞
Author(s)	稲場, 圭信
Citation	宗教と社会貢献. 2011, 1(1), p. 1-1
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/20306
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

『宗教と社会貢献』創刊の辞

編集委員長 稲場 圭信

本ジャーナル『宗教と社会貢献』は、2006年6月に「宗教と社会」学会の学術大会総会で承認された「宗教の社会貢献活動研究プロジェクト」(<http://keishin.way-nifty.com/scar/>)の取り組みが土台となっている。成果は、2009年に『社会貢献する宗教』（世界思想社）としてまとめられている。その後も研究会を重ねてきたが、プロジェクトが終わる本年、「宗教と社会貢献」研究会と名称をあらため、新体制で進めていくことになった。それと時を同じくして、研究者の問題関心を広く社会に伝えるために、紙媒体無しの無料電子ジャーナル『宗教と社会貢献』（大阪大学学術情報庫OUKA 利用）を発刊することとした。本ジャーナルが、宗教研究者のみならず幅広い層に読まれることを期待したい。

本ジャーナルの査読・編集作業を進めている中に、3月11日、東日本大震災がおきた。自然の猛威の前に人間の無力さを感じ、放心状態に陥った。宗教の社会貢献を研究する者として、一人の人間として傍観者でよいのか。2日後、研究仲間呼びかけ「宗教者災害救援ネットワーク」(<http://www.facebook.com/FBNERJ>)を立ち上げた。19日には「宗教者災害救援マップ」(<http://sites.google.com/site/fbnerjmap/>、システム統括：黒崎浩行國學院大學准教授)も上記に連動するようになった。そして、4月1日には、「宗教者災害支援連絡会」(<http://www.indranet.jp/syuenren/>、代表：島菌進東大教授)が設立され、上記のネットワークと緊密に連携することとなった。宗教者、宗教団体、在家の無名の信仰者が救援の現場で活動をしている。後方支援をする人たちがいる。祈る人たちがいる。宗教の社会貢献として、このジャーナルに登場する日も来ることだろう。しかし、今回の震災のことを語るには時期が早すぎる。言葉を紡ぎだすことができない。そのような重苦しさも感じている。今は、福島原発事故が鎮静化し、救援活動が進むことを願うばかりである。

震災で命を落とされた方々のご冥福をお祈り申し上げます。

被災者の方々にお見舞い申し上げます。